InfoWorks CS v6.51 ﾘﾘｰｽﾉｰﾄ

InfoWorks CS v6.51では、v6.5で見受けられた、以下のｴﾗｰが修正されました。

河川断面で正確なｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ結果が得られない

v6.5では、ﾘﾝｸﾀｲﾌﾟ「River（河川）」にて水理結果がおかしくなるというｴﾗｰが見受けられました。v6.51では、このｴﾗｰが修正され、v6.0以前のﾊﾞｰｼﾞｮﾝと同じ水理結果が得られるようになりました。

ﾌﾘｭｰﾑと広頂堰で上流水位が正確に計算されない

ﾌﾘｭｰﾑでは、ﾓｼﾞｭﾗｰ比（上流水深に対する下流水深の比率）が75%を超えると、（ｾﾞﾛに近い）公称損失水頭が適用されます。この状態は、ﾌﾘｭｰﾑが水没している、あるいはﾓｼﾞｭﾗｰ限界を超えているとしても説明されます。ここでは、ﾌﾘｭｰﾑがいったん水没すると、状況によってはﾓｼﾞｭﾗｰ限界状態に戻らないという問題がありました。このｴﾗｰは特に初期化ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝでﾌﾘｭｰﾑが水没する場合に見受けられ、今までのﾊﾞｰｼﾞｮﾝでも同じｴﾗｰが発生していました。このv6.51では、上流水位が追加ﾁｪｯｸされるようになり、ﾌﾘｭｰﾑや広頂堰がﾓｼﾞｭﾗｰ限界の範囲に関わらず挙動できるようになりました。この修正は、これらの構造物のほんの一部にのみ影響します。ｸﾞﾗﾌ機能を使用して上流水位と下流水位を比較し、水深差が数mm以下になっており構造物が水没していないか確認して下さい。

MapInfo ﾌｧｲﾙからｴﾘｱﾃｲｸｵﾌが実行できない

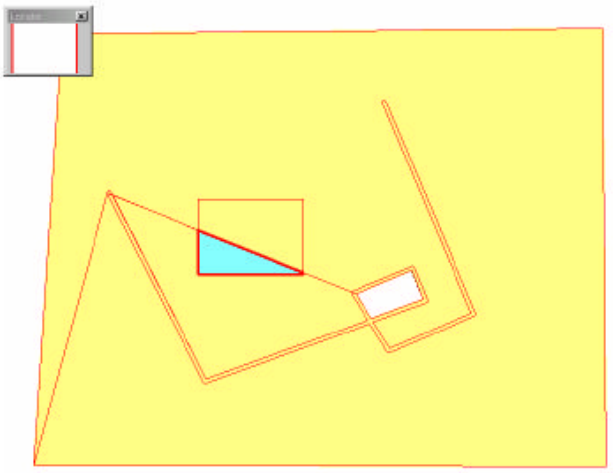
ｴﾘｱﾃｲｸｵﾌ（ｶｰﾄﾞ化したﾎﾟﾘｺﾞﾝからの下位集水域地表面面積の計算）を実行するには、3つの方法があります。このうちの1つにMapInfo .tab ﾌｧｲﾙから直接実行するというのものがあります。この機能がv6.5では使用できなくなっていました。v6.51では、再度この機能が搭載されました。この問題は、ESRI .shpﾌｧｲﾙからの実行など他の方法には関係ありません。

複数の境界線からなるﾎﾟﾘｺﾞﾝで面積がきちんとされない

これは、「ｴﾘｱﾃｲｸｵﾌ」、「人口調査ｴﾘｱからの人口ﾃﾞｰﾀ」、「土地利用工種からのCNﾃﾞｰﾀと土壌ﾀｲﾌﾟ」、「交差ﾎﾟﾘｺﾞﾝからのﾎﾟﾘｺﾞﾝ生成」機能に関係があります。

v6.5では、複雑なﾎﾟﾘｺﾞﾝから地表面の面積を計算するという機能が新しく導入されました。ここでいう複雑なﾎﾟﾘｺﾞﾝとは、複数の境界線からなるﾎﾟﾘｺﾞﾝとなります。例えば、一部に穴が開いているﾎﾟﾘｺﾞﾝでは、内部境界線と外部境界線が存在することになります。

下図のように、複雑なﾎﾟﾘｺﾞﾝでは、重なり合う別のﾎﾟﾘｺﾞﾝを交差して描画ﾗｲﾝが引かれていました。



v6.51では、この問題が解決され、こういった描画ﾗｲﾝが面積計算に影響することはなくなりました。これらの描画ﾗｲﾝを非表示にするには、ｼﾞｵﾌﾟﾗﾝを右ｸﾘｯｸし「ﾃｰﾏ」ﾒﾆｭｰを選択します。次いで、ﾀﾞｲｱﾛｸﾞの「Polygon」ﾀﾌﾞにてﾌｨｰﾙﾄﾞを選択してｽｹｰﾙし、すべての「Line」列で「None」を設定します。
v6.5では、複雑なﾎﾟﾘｺﾞﾝが2つ以上重なり合うと、ﾎﾟﾘｺﾞﾝ内の穴が誤って埋められていました。この問題もv6.51で解決されています。